

# 委託事業実施内容報告書

## 平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 インターカルト日本語学校

#### 1 事業の趣旨・目的

近年、国内における日本語教育の対象となる外国人は、留学生、研修生などのほかに、定住者や日本人の配偶者などの日常生活を送る上で必要な日本語を学習する者が増加している。平成21年度の文化庁「外国人に対する日本語教育の現状について」の調査によると、その学習者数は、170,858人となっており、過去最高となっている。教師数においてはボランティア等の数が15,753人(54.0%)と最も多くなっており、ボランティアが定住者や日本人の配偶者といった地域における日本語学習者への教授担当者を担っていると思われる。

そのような現状の中、東京都台東区に位置する当校は、いわゆる外国人集住地区ではないものの、区の全人口の7%近くを外国人が占め、特に小中学校等の公教育においての外国人に対する日本語教育は決して十分ではないという現状が聞かれる。また、ボランティアに関しては、台東区にはいくつかの団体が存在するが、横のつながりはなく、各ボランティアベースで活動を行っている。学習者の数も多く、レベルにも差があるようだ。より、専門的な知識や技能を求めているボランティアの数が多いうことを平成21年度の我々の講座開講(文化庁委嘱事業)による経験から得たことである。

当校の34年に渡る日本語教育と日本語教師の養成という実績を今年度もボランティアの方々のため、より実践的な指導能力を身につけるために、各技能別に様々な角度から指導法を学びともに、実習授業を取り入れ、教えるスキルのアップを図るとするのがこの講座の趣旨であり、目的である。

#### 2 企画委員会の開催について

##### 【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月1日	インターカルト 日本語学校	加藤早苗 筒井由美子 萩原秀樹 鈴木節子 谷口真理	講座の内容 講師の選定 募集方法	前年度のアンケートをもとに、ボランティアの方々が求めていること、当校として何ができるかを考える。 講座の内容と講師の決定を行う。

				前年度の反省を踏まえ、今年度の募集をどのように行うかを話し合う。
7月31日	インターカルト 日本語学校	加藤早苗 筒井由美子 萩原秀樹 鈴木節子 谷口真理	講座内容の最終確認 講師の依頼状況 募集に関して 連絡方法	講座の内容の確認。 実習について。どのよう に行うか。教える項目選 び。実習に必要なこと。 講師に依頼する内容。 今後の連絡方法。
1月22日	インターカルト 日本語学校	加藤早苗 筒井由美子 萩原秀樹 鈴木節子 谷口真理	講座の状況報告 今後に向けての話し合い	講座毎に行ったアンケー トをもとに、講座の反省を 行う。ボランティアの方々の 要望を整理し、当校とし て、引き続きできることを 確認し、次年度につなげ ていく方向で話し合いを 行った。

【写真】



**3 研修講座の内容について**

- (1) 研修講座名 ボランティアのためのブラッシュアップ講座
- (2) 研修の目標 地域に求められるボランティアの日本語指導者としてのスキルアップとコミュニケーション能力を高めて学習者との人間関係を構築していく力を養う  
互いの地域のボランティアでの活動を共有し交流を深める
- (3) 受講者の総数 24 人(出身・国籍別内訳 日本 24人)
- (4) 開催時間数(回数) 3 時間 (10 回)
- (5) 参加対象者の要件 地域のボランティア活動に携わっている者

(6) 受講者の募集方法

- ・ チラシ作成 ・ インターカルト日本語学校 HP 掲載
- ・ 台東区、墨田区、文京区、荒川区地域振興課にチラシを持参し協力依頼
- ・ 台東区ボランティア団体にチラシを持参し協力依頼
- ・ 21 年度受講参加者への告知
- ・ 前年度に委託事業参加者で立ち上げた、メーリングリスト「井戸端ネット」で告知

(7) 研修会場

ア 講義会場 インターカルト日本語学校

イ 実習 インターカルト日本語学校

(8) 使用した教材・リソース 担当講師の作成したプリント パワーポイント

講師紹介書籍、参考書、テキスト

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10/9 (土) 13:00~16:00	<b>教え方実践編</b> <b>コミュニケーション能力 ①</b> — ゼロからの人間関係作りを促すアイデア —	インターカルト 日本語学校専任講師 萩原秀樹	21 名
10/16 (土) 13:00~16:00	<b>地域日本語教室における参加型アプローチ</b> — 地域に求められる日本語指導者とは —	東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター センター長 伊東祐郎	21 名
10/23 (土) 13:00~16:00	<b>教え方実践編</b> <b>コミュニケーション能力 ②</b> — 学習者との信頼関係を深め、教室活動に反映させる—	インターカルト 日本語学校専任講師 萩原秀樹	23 名
10/30 (土) 13:00~16:00	<b>教え方実践編 言葉の分析</b> 私たちの日本語をどれだけ知っていますか？ 辞書や参考書を頼らずに言葉を掘り下げてみよう！	インターカルト 日本語学校非常勤講師 宮島京子	18 名
11/6 (土) 13:00~16:00	<b>国語文法ではない外国語としての日本語文法 ①</b> ・助詞 格助詞 副助詞 ・「は」「が」の用法比較	インターカルト 日本語学校日本語教員 養成研究所 所長 筒井由美子	22 名

11/13 (土) 13:00~16:00	<b>国語文法ではない外国語としての 日本語文法 ②</b> ・動詞 ・受身使役 ・使役受身 ・待遇表現と敬語	インターカルト 日本語学校日本語教員 養成研究所 所長 筒井由美子	21 名
11/20 (土) 13:00~16:00	<b>教え方実践編 発音指導法①</b> 日本語のリズムで話そう！ 日本語のリズムじゃないと意味が 通じないことがある	インターカルト日本語学 校非常勤講師 喜多民子	22 名
11/27 (土) 13:00~16:00	<b>教え方実践編 発音指導法②</b> 苦手な音の攻略法 どんな音が難しいですか？	インターカルト日本語学 校非常勤講師 喜多民子	23 名
12/4 (土) 13:00~16:00	<b>日本語学校の授業を体験しよ う！</b> 教壇に立つためのプラン作り	インターカルト日本語学 校非常勤講師 齋藤美幸	23 名
12/11 (土) 13:00~16:00	<b>教壇に立ってみよう！</b> —実習— 発表とフィードバック  講座を修了にあたりボランティア 同士の交流会	インターカルト 日本語学校日本語教員 養成研究所 所長 筒井由美子 インターカルト日本語学 校非常勤講師 齋藤美幸	23 名

## (10) 講座の評価

### ① 受講生に対するアンケート

- 教え方実践編 コミュニケーション能力①** —ゼロからの人間関係作りを促すアイデア—  
講師: 萩原秀樹

#### <感想>

- ・ペンネームにすることで心が開く事に気づき、絵を描いたり色を塗る事でその意味を改めて考えました。
- ・机に座ってきちんと勉強することにとらわれ、体を動かしたりゲーム感覚のものを取り入れることで楽しい授業になることを知りました。
- ・初めて会った人たちがみるみるうちに打ち解けてもっとその人を知りたくなるマジック。参加型の授業は楽しかったです。
- ・楽しい雰囲気であつと言う間の3時間でした。自分自身が学ぶ楽しさを知りました。

●地域日本語教室における参加型アプローチ

—地域に求められている日本語指導者とは—

講師：伊東祐郎

<感想>

- ・フォトランゲージをはじめて行ったが、学習者が自由に話せ、学習者から発信できること、又1枚の写真から色々な広がりがあるということを知りました。
- ・「言語の習得には短期達成という道はなし」を伺い、コミュニティとの共生とコミュニケーションの大切さを感じました。
- ・地域日本語教室としての役割や意義を再認識できました。
- ・アンケートのとり方の「室の四隅」を知り、すぐに自分の教室でも使ってみたいと思います。

●教え方実践編 コミュニケーション能力②

—学習者との信頼関係を深め教室活動に反映させる—

講師：萩原秀樹

<感想>

- ・アイスブレイクウォームアップは日本人同士でも有効だと思いましたから、学習者がリラックスして学習できるよう取り入れたいと思いました。
- ・「してもらったこと」「してあげたこと」をたくさんあげていく授業は楽しかったのですぐ教室でやってみようと思います。
- ・ネタをたくさん教えて頂き、自分の引き出しが増えました。
- ・絵、ビデオ、映画、100円ショップのグッズなど面白い教材がたくさんあることを知り、自分のイメージの無さを思い知らされました。

●教え方実践編 言葉の分析 —私たちの日本語をどれだけ知っていますか？—

講師：宮島京子

<感想>

- ・私たちが普段何気なく使っている言葉、日本人は正解を知っているが説明出来ない。確かにそうですね。相手に合った例文をあげて考えていく方法は、とても参考になりました。
- ・先生の話し方、動作がとても信頼感と安心感があり魅力的でした。見習いたいと思いました。
- ・普段意識していなかった事柄をあえて深く掘り下げる機会を与えていただき本当に良かったです。
- ・授業中に出合う類似語の教え方に関して、とても具体的で良く理解できました。
- ・言葉の場面設定、具体例への共感など、「ことば」をいい加減に扱っていたのでは

ないかと反省しました。

● 国語文法ではない外国語としての日本語文法①

・助詞、格助詞、副助詞 ・「は」「が」の用法比較

講師:筒井由美子

<感想>

- ・ 「は」「が」の用法比較は、学習者に聞かれて上手に説明できなかったことですから、1 番教えて頂きたかったことでした。的確な言葉、事例で、学習者に理解してもらうことの重要性を感じました。
- ・ 「桃太郎」「雪が降る」「うなぎ文」などの例は、印象深く、頭の中がとつてもすっきり整理されて、大変良かったです。
- ・ 可能形、ラ抜き言葉などは、日本人も混乱することがあるので良く理解できました。
- ・

● 国語文法ではない外国語としての日本語文法②

・動詞 ・受身使役 ・使役受身 ・待遇表現と敬語

講師:筒井由美子

<感想>

- ・ 文法は難解なのですが、先生の講義はわかり易く楽しく、頭の中が整理されて大変良かったです。
- ・ 授受表現で四苦八苦したばかりです。「あげる」「もらう」を「渡す」「受ける」などの他の動詞で指導する必要があると痛感しました。
- ・ 可能と尊敬と受動態が同じ形だということについて、とても納得できました。
- ・ 内容が濃く役に立ち、余談がまたわかりやすくて面白かったです。
- ・ 自動詞、他動詞の自他の対立など参考になり、日本語の奥の深さを勉強した感じです。

● 発音指導法①

—日本語のリズムで話そう。日本語のリズムじゃないと意味が通じなくなる —

講師:喜多民子

<感想>

- ・ 日本語の発音の舌の位置ということをあまり考えてみたことがなかったので、とても参考になった。
- ・ 音声字母表自体は何度も目にしていたが、この講義で音の構造が良く理解できました。
- ・ 「フ」の発音練習方法がとても参考になり、例文も楽しいものばかりなので、自分

の教室ですぐ使わせていただきたいと思います。

- ・ 発音について習ったことが無かったので、知識が整理されました。

● 発音指導法② ―苦手な音の攻略法― どんな音が難しいですか。

講師:喜多民子

<感想>

- ・ アクセントやイントネーションを押さえるだけでも日本語らしく聞こえることが再認識でき、学習者にアドバイスするのに大変役に立つと思いました。
- ・ 山形を書く練習は、発音が目に見えてわかりやすくてよかったです。
- ・ 音声については、自分が関西弁話者なので戸惑うことが多かったのですが、頭が整理されました。
- ・ ペンギン、ペンキ、ギンコウの鼻濁音の「ギ」、「ギ」、「ニ」の区別がつけにくくて困りましたが、もう1度挑戦しようと思います。
- ・ シャドーイングは参考になりましたから、すぐ取り入れてみたいです。

● 日本語学校の授業を体験しよう！

講師:齋藤美幸

<感想>

- ・ 授業の中に達成感、楽しさ、喜びがあるか、自発的でメリハリがあるか、着実性はあるかなど授業を作り上げる難しさを感じました。
- ・ グループで次回の実習プランを作りましたが、なかなかアイデアが浮かばず、先生にアドバイスを頂いて進めることが出来ました。
- ・ 教室活動は、ほとんどしたことが無かったので、大変でした。

● 教壇に立ってみよう！ ―実習―

講師:齋藤美幸 筒井由美子

<感想>

- ・ かなり緊張してしまって、何をしているのかわからなくなっていました。
- ・ 学習者にスムーズに言わせるには、こちらの説明が多すぎると混乱させてしまう事がわかりました。説明は短めに的確な場面提示が大切だと知りました。
- ・ フィードバックで先生がやさしく説明して下さったので、良く反省をし、今後の授業に活かしていきたいと思います。

《10回の講座を終えての感想》

- ・ 自分自身の知識の振り返りができて良かったです。
- ・ 日本語文法の講義は、そのまますぐボランティアの授業で使わせて頂きました。

英語圏の学習者によく理解してもらえました。

- ・ 「は」「が」の用法比較は、学習者に聞かれても上手に説明出来なかったのが、良かったです。ほかの講座でも、例文等たくさん提示して下さったので勝手に使わせて頂いております。
- ・ 発音指導法では、「発音字母表」の存在は知っていましたが、実際の音を聞かせて頂けて良かったです。
- ・ 教えながら疑問に思っていた所が、解決されました。
- ・ ワークショップ形式は楽しかったし、実習では客観的に自分の授業を見ることが出来ました。
- ・ 地域のボランティア教室では、知識はもちろんのこと学習者との人間関係や信頼関係が大切であることを再認識しました。
- ・ 先生方がとてもすばらしく、私が学習者ならインターカルト日本語学校で学びたいと思いました。
- ・

## ② 実施主体からの研修内容結果評価

アンケートの結果からみて、おおむね受講者の知りたい欲求は満たされたのではないかとされる。講師の先生方が技能別に教授出来るスキルを十分持っているので、受講生を楽しませた内容だったとアンケートからも伺えた。

今回の実習の中で、自分の教え方を客観的に見られ、他のボランティアの方々と共にフィードバックも出来、共通認識も得たことは受講生にとって、大きな成果だったと考える。また、コーディネーターが受講生と同じ教室にいて、講師と受講生とのパイプ役になり、質問しやすい雰囲気を作れた。講座を楽しみにしていただき、一度も休まず通った受講生がほとんどだった。

## ③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

台東区の行政と共に協力し合い、ボランティアグループの勉強会等に講師を派遣するなど、支援できる体制を作る。また、台東区主催の「ボランティアのための講座」を昨年は依頼を受けて実施したが、今年度以降も当校が毎回実施できるように行政に働きかけたい。地域に住む外国人のために日本語学校が提供できること、地域向けの日本語教室、相談窓口など実施するための環境を整えていきたい。

## (11) 事業の成果

### ① 他事業との連携

台東区主催の「外国人支援ボランティア養成講座(スキルアップ編)」を台東区交流促進課から委託され、実施した。交流促進課と情報交換ができる関係を築いた。台東区のボランティア団体と交流できる関係が築けた。

② 研修後の人材かつよう

この研修を通じてボランティア1人1人が「日本語を教える」スキルを十分学んだと実感している。ここで学んだスキルを所属している団体に持ち帰り、他のメンバーに教え、広げていることで、ボランティア全体の教えるレベルの向上が期待される。

(12) 今後の課題

ボランティアのスキルをあげることで、学習者の日本語を学ぶ意欲にもつながる。日本語学校の持っているノウハウをボランティアに提供していく機会を作ること。そのためにも行政とボランティアとの橋渡しを日本語学校が担っていくことが必要である。